

主编 汤重南

日俄战争史料

12

线装书局

主编 汤重南

(第十二册)

日 俄 战 争 史 料

綫装書局

第十二册

第八卷 芝罘電報

早稻田大學

自明治三十七年二月至五月

.....一

芝罘電報

第八卷

早稻田大學

自明治三十七年二月至五月

芝罘電報

自明治卅七年
二月至五月

日露戰役史料

第八卷

早稻田大學

明治三十七年二月分

芝罘電報集

二月三日

我團軍艦セバストポール號ハ外戦開六隻巡洋
艦六隻水雷敷設艦二隻今朝旅順ニ投錨ス其
行先ハ不明ナリ

二月五日

去リ三日旅順口ニ投錨シテ我團軍艦一戰艦
輕七隻巡洋艦六隻駆逐艦水雷艦若干一は同日
大連湾ニ入り更に何れニ向ルカハ後翌四日

午後旅順、引揚したる機極なりと、情報當地
に達せり

二月六日

四五日以前旅順より歩兵五個大隊騎兵一個中
隊砲兵二個中隊又大連より歩兵一個大隊出發
せり内一部隊は營口方面に向ひ其他ハ朝鮮國
境に向へるなりん

オチツサより一千八百の陸兵を來せ出發せし
運送船力サニ一號は去る三日旅順、到着せり

二月五日

旅順海岸の各砲台に歩兵を配置せし又昨夜
十時頃目撃せし處に揚子水雷駆逐艇二隻外
五哩の沖にあり其背後に巡洋艇水雷艇砲艇等
を排列し港外に各戦隊艇警戒し港内にはセ
バストボロフと外二隻の巡洋艇のみなり

昨日入港せし露國艇二隻日本人二百名旅順に
り又今朝の艇便にて同三十名タルニより美
船にて支那苦力八百餘名旅順より揚子江に
地

ニ引揚ぐ、又外國の婦人、小児、百五十名、昨日
旅順より上海へ引揚ぐ、又獨旅順の外國商店
ハ續々閉店、一大混亂を極め居たり

二月九日

旅順口ニ於て、日夜兩艦隊の海戦あり、戦ハル日
一夜十一時を以て開始されたり、日本艦隊ハ先
づ旅順港外ニ在り、露國艦隊ハ攻撃し、初めたり
ニ二隻の露國戦艦、旅順口ニ再び入港せん
とす、其入口ニ至りや水雷艇、命中して沈没し
巡洋艦一隻も亦同く水雷艇、命中して港の附近

ニて乗上げたり

夜間船隊は惣て港外ニありて自ら入港する能
はた

澳攻撃は更ニ今九日午前九時を以て始りたり
り而して其結果ハ未だ知らずニ至らざるも
日本の損傷ニ関する報告ハ未だ乏なり

右ニつゞて或る信をバウ處に到達したる據報
云ニ是果水野銃隊の報告なり

二月十一日着度

昨日旅順港より帰着し、左に某商船乗組員の詰
る處：とある

吾が水雷艇は、午前四時、露國戰艦二艘大迫洋
艇一艘を拿捕し、日本艇隊は微傷した。この艇形
は、整然たる之に反し、露國艇隊は頗る乱軍の體
裁なり。

二月九日

日本領事ハ、旅順口至：ガルニ、より避難日本
人と美國汽艇、乗せし当地ニ歸着し、たゞ其結
る所を聞く。今朝九時旅順口を距る十八哩の

所：於て十六隻、日本水軍艦、旅順口に向ひ
航進せしに出會ひたり。尙ほ旅順口には三十人
の日本人有り。是等ハ明日当地ニ到着せし若
かり而して彼等ハ露國官吏より慰へて可なり
取扱ひせしむ

二月十一日

樺逸汽船今朝旅順口より入港し、其乗客ハ
諸君所：係りハ露國ハ二戦開艦並ニ巡洋艦幾
隻ハ浮上りたり

英米汽船七隻許りハ旅順口ニ於て官吏ハ爲り

抑留せしむなり

又風説：係小日本ハ某港ニ軍隊ヲ上陸セし
メタルハ露軍ハ居メニ警退セし小旦ヲ重大ナル
損害ヲ受ケタリト但一是小ハ事實ニチラザ
るベシ

牛莊旅順口同ハ鉄通ニ武装セシ清國人大團隊
ニ背ラサルハ不安ナリトハ報アリ

九日中旅順港内：破砕一昨日午後三時其果
到着一左ハ樞通商船ハ齊一々ハ戦報ハ今朝ハ
電報ト同一：一ハ九日晝間ハ海戦ハ十一時二
十分：初リ四十八分：片ハ澤凡ハ港内及上陸